

平成 21 年度林業生産流通革新的取組支援事業の選定実証課題

番号	モデル地域名	申請者名	実証課題	実施内容
1	中日本圏域	中津川市森林組合	ヒノキの採材及び販路拡大と木材流通コスト削減	当地域は東濃ヒノキの産地として柱材を中心に生産してきたが、低コスト作業システムの確立のため、これまで地域で取組んでいないヒノキ A・B・C 材の製材工場及び合板・パルプ工場への直送を実施し、中間土場での仕分け・検知及び輸送コストの検証を行う。
2	岐阜広域	親和木材工業株式会社	小規模素材生産地における生産・搬出工程の生産性向上と直送による流通コストの低減	小規模生産現場における生産・流通コストの低減のため、高性能林業機械 1 台を駆使し大きな成果を上げている作業システム等の調査・分析、中間土場設置による直送の輸送効率・コスト分析等を行う。
3	四国	徳島県林業協同組合	クローラ式運材トラックを活用した搬出システムの実証と検証	当地域ではスイングヤーダ・プロセッサ・フォワーダによる「新聞伐システム」を推進しているが、フォワーダによる運搬距離が長くなるほど生産コストが割高となる。このため、クローラ式運材トラックを導入し、走行性・安全性等の性能の調査検証、活用方法の調査検討、これまでのシステムとの比較調査、中間土場まで搬出した場合の生産性の調査等を行う。
4	高知中央・東部	有限会社川井木材	自動荷外し器使用による木材生産効率化及び省力化	木材生産の飛躍的な効率化を推進するため、北欧で開発された自動荷外し器を使用した集材の実証を行い、現在の伐倒・集材・造材の 3 人体制を 2 人体制で行う作業システムの確立に取り組む。
5	宮崎	西臼杵森林組合	高性能林業機械を使用した素材生産及び原木直納によるコスト削減効果の検証	当地域の素材生産はこれまで集材機利用を主体にしていたが、コスト削減のため、高性能林業機械（スイングヤーダ・プロセッサ・グラブ）を利用した作業システムと A・B 材の製材工場への直納システムの実証・調査を行う。

6	鹿児島圏域	曾於地区森林組合	放置された小規模分散型集約施業地における全量搬出の経済性の追及	小規模分散型の施業地は、概して初回間伐林分が多いことから曲材が多く、生産コストに比較して材価も低く、A材以外の利用も視野に入れた取組も必要である。近年急速に需要の増加しつつある畜産用オガ粉や間伐材チップに着目し、「A材のみの搬出に係る生産流通コスト」と「A材を含む全量搬出に係る生産流通コスト」を実証・分析し、森林所有者利益還元の方策を検討する。
7	奥久慈八溝	協和木材株式会社	車両系林業機械による低コスト木材生産と林地残材利用の推進の実証	木材生産・流通コストの削減、林地残材の利用推進により、森林所有者への還元の確保を図るため、車両系林業機械（グラップル、プロセッサ、フォワーダ）を導入した全木集材の実証、山元からすべての材を工場土場への直送及び工場土場での仕分けの実証を行う。
8	中日本圏域	愛知県森林組合連合会	急傾斜間伐地における車両系高性能林業機械による生産システムの構築と運材の効率化	林道から距離があり急傾斜である等、条件が不利な施業地の木材生産の低コスト化のため、急傾斜地における列状間伐のロングアームハーベスタの利用、脱着式フォワーダによる運材工程の合理化、ザウルスロボによる作業路作設の低コスト化の実証を行う。
9	中日本圏域	田中林業株式会社	高性能林業機械による定性間伐の実施及び製材工場直送・選別	当地域の木材生産は、これまで架線集材方式が主体であるが、高性能林業機械を用いた新しい作システムを導入し、低コスト、高生産性を実現する。このため、高密度路網と組み合わせたハーベスタ中心の作業システム、ザウルスロボによる作業路作設の低コスト化、製材工場への直送及び工場土場での仕分けの実証を行う。
10	中日本圏域	吉田本家山林部	定性間伐におけるタワーヤーダを用いた素材生産と低コスト流通・販売の実証	吉田本家では年間約 3 千 ^m の木材生産を行い、全量を市場で販売している。効率的な集材方式の確立と流通・販売の低コスト化を図るため、新たな取組としてタワーヤーダを用いた定性間伐、中間土場仕分けによる工場直送を行い、従来方式との集材効率、搬出・運搬経費及び原木販売経費を比較検証する。

11	四国地域（四国中東部）	宇摩森林組合	木材資源の有効利用における採算性の検証	木材価格の低迷と労働力不足により、山林に放置される不採算木や未利用材が増加している。未利用林地残材の有効利用を図るため、伐採原木をすべて搬出し、A材は用材として市場で販売し、B・C材は組合のバイオマス施設でチップ化し、製紙工場に納入し、これらの生産コスト、販売コスト、採算性を調査・分析する。
12	大分	田島林業株式会社	高性能林業機械を導入した新生産システムの実証	これまで日田地域の伐採搬出は伝統的に架線集材が主流で、その生産性は低位にある。昨今の木材価格低迷の中で、飛躍的な生産性の向上とコストダウンを図るため、小型（0.25 m ³ ）と大型（0.45 m ³ ）のハーベスタ、スーパーロングリーチグラップルを使用する木材生産を実証し、作業効率の調査・分析を行う。
13	宮崎	株式会社松岡林産	スーパーロングリーチグラップルを使用した間伐のコスト削減効果の検証及び林地残材等の集積・運搬コスト削減効果の検証	再生林の低コスト化を前提とした伐採、林地残材の処理に取り組むため、九州で初めてのスーパーロングリーチグラップルによる列状間伐を実施し、生産能力、生産性、生産コストを検証する。また、2 m材、枝条、未利用材を山土場でチップ化し、工場に運搬する実証を行い、コスト等の調査・分析を行う。